

# 居住者の日頃の備え

## ① ハザードマップの確認

ハザードマップは、自然災害による被害を予測し、その被害の範囲を地図化したものをいいます。活用場面として、災害発生前の事前学習をしていただくこと、災害時に緊急に確認していただくことを目的に作成しています。

### 確認できること

- 自宅や身近な場所が、被害が想定されている区域かどうか。また、被害がどれくらい続くのか、確認できます。
- 避難方法の検討ができます。地域や家族構成などによって、安全な避難の方法は異なります。
- 避難先と、そこまでの安全な避難経路が確認できます。



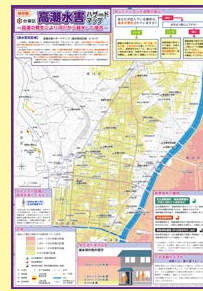
台東区水害ハザードマップ  
※令和3年度改訂予定



台東区荒川水害ハザードマップ



台東区神田川水害ハザードマップ



台東区高潮水害ハザードマップ



台東区土砂災害ハザードマップ  
※該当地域は、谷中と池之端の一部地域です。

## ② 避難方法の確認

「避難」とは、難を避けることです。様々な避難行動を組み合わせることで、風水害時の安全確保が可能となります。行動を確認し、適切な避難方法を選択してください。

<b>浸水区域外避難</b> (荒川氾濫が想定される場合の避難方法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 荒川が氾濫した場合の浸水想定区域の外へ避難する方法です。広域避難場所への避難と縁故避難等(下記)を指します。 ※緊急を要する場合以外、在宅避難は推奨しません。</li> </ul>
<b>在宅避難</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 浸水しない階の居住者が自宅で避難する方法です。 ※土砂災害警戒区域、神田川氾濫における家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)では、推奨しません。</li> </ul>
<b>緊急避難場所への避難</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 区の開設する緊急避難場所(26ページ参照)へ避難する方法です。 ※マンションの2階以上に避難する場所がない場合は、縁故避難等(下記)または緊急避難場所へ避難してください。</li> </ul>
<b>縁故避難等</b> ※区外への避難を含みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 浸水リスクや土砂災害の危険性がない場所にある知人や親戚宅、ホテル等へ避難する方法です。</li> </ul>

### 荒川氾濫時、自宅に留まった場合の生活環境イメージ

荒川が氾濫すると、浸水が2週間継続するだけでなく、ライフライン(電気・ガス・上下水道)が停止するため、右のイラストのように生活環境が悪化します。

#### 〈事前に出来ること〉

- 浸水想定区域外の避難先を決める(知人や親戚宅、ホテル等)。
- どうしても浸水想定区域外への避難が難しい場合は、2週間分の備蓄(特に水、食料、簡易トイレ)を準備しておきましょう。



イラスト出典 中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会報告参考資料集」

### ③ 避難行動の確認

台風や豪雨に備え、災害ごとのハザードマップと一緒に、自分がとるべき避難行動を確認しましょう。避難行動は避難場所に行くことだけではありません。あらかじめ自分が何に注意し、どう行動するかを考えておくことで、万が一風水害が発生しても落ち着いて行動することができます。区の避難情報については、27ページをご確認ください。

#### 荒川氾濫の場合

**荒川が氾濫した場合、台東区の広範囲が浸水します。**

そのため、自宅から離れた安全な場所まで避難しなくてはなりません。

台東区から「自主的広域避難情報」が発表されたら、早めに浸水想定区域外への避難をしてください。

「台東区荒川水害ハザードマップ」を確認しましょう



あなたが住んでいるマンションは、**浸水が想定**されていますか？

はい

浸水が2週間以上続きます。孤立するおそれがあるため、浸水想定区域外へ避難してください。

いいえ

避難の必要がありません。内水氾濫と土砂災害に注意してください。ただし、被害想定がなくても、周りより低い地形等の場合、気象庁や区からの情報を確認し、必要に応じて避難してください。

#### 内水氾濫・神田川氾濫・高潮の場合

マンションの2階以上にお住まいの方は、在宅避難で十分に安全を確保できます。

マンションが家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)の場合は、下記に関わらず、緊急避難場所へ避難してください。

※家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)とは、洪水の流れにより河岸が侵食される(削りとられる)おそれがある区域のことです。



「台東区水害ハザードマップ(東海豪雨相当降雨による内水氾濫区域図)」  
「台東区神田川水害ハザードマップ」  
「台東区高潮水害ハザードマップ」

を確認しましょう。

※それぞれのハザードマップであなたがとるべき避難行動を確認してください。

あなたが住んでいるマンションは、**浸水が想定**されていますか？

はい

自宅は2階以上ですか？

はい

避難情報が発令された場合でも在宅避難をしてください。引き続き**荒川氾濫**、**土砂災害**にも警戒してください。

いいえ

避難情報が発令された場合、災害の危険があるので、**緊急避難場所**へ避難してください。  
※分譲マンションの場合は浸水しないフロアの廊下(共用部分)を避難先として活用することも可能です。

いいえ

避難の必要がありません。**荒川氾濫**、**内水氾濫**、**神田川氾濫**、**高潮**、**土砂災害**に注意してください。ただし、被害想定がなくても、周りより低い地形等の場合、気象庁や区からの情報を確認し、必要に応じて避難してください。

#### 土砂災害の場合(谷中・池之端にお住まいの方のみ)

「台東区土砂災害ハザードマップ」を確認しましょう



あなたが住んでいるマンションは、**土砂災害警戒区域**ですか？

はい

土砂災害によりマンションが土砂に埋まる可能性があります。避難情報が発令された場合、**緊急避難場所**へ避難してください。

いいえ

避難の必要がありません。内水氾濫に注意してください。

## ④ 風水害時の避難場所の確認

### 荒川が氾濫した際の避難場所

荒川が氾濫すると、台東区の広範囲が浸水するため、下記地図中の避難場所の大半が使用出来ません。

- 荒川氾濫の危険があるときは、台東区から早期に発表される自主的広域避難情報を参考に、知人や親戚宅、ホテル等への避難を含めた浸水想定区域外に避難してください。
- 浸水想定区域外まで遠い方、高齢者や病気のある方など避難に時間を要する方は、早めに避難してください。

### 台東区内の風水害(荒川氾濫以外)の避難場所

内水氾濫・神田川氾濫・高潮では、自宅が2階以上の場合、在宅避難で十分に安全を確保できます。また、地震と違い、避難場所は町会ごとの指定はありません。最寄りの避難場所へ避難してください。

**自主避難場所  
緊急避難場所**  
(早期に開設する避難場所)

- 避難情報が発令されていない段階で、自主的な避難を希望する方に早期に開設する避難場所です。
- 避難情報が発令されると緊急避難場所としての運用に切り替わります。
- 避難場所は密になりがちです。感染症のリスクを伴いますので、できる限り在宅避難してください。
- 風水害から緊急的に身の安全を確保する場所です。水や食料は各自で持参してください。

**緊急避難場所**

- 避難情報の発令や風水害の状況により、命を守るために、一時的に避難する場所として開設します。
- 浸水想定区域内で、1階にお住まいの方や神田川氾濫における家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、避難情報が発令された場合、緊急避難場所に避難してください。
- 風水害から緊急的に身の安全を確保する場所です。水や食料は各自で持参してください。



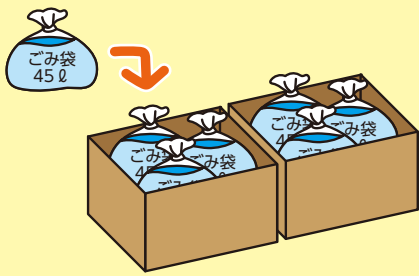
## 5 備蓄品の用意

在宅避難に備えて、備蓄品を用意しておきましょう。基本的には、地震対策用の備蓄品で対応できます。地震対策用の備蓄品は、4ページに記載していますのでご確認ください。

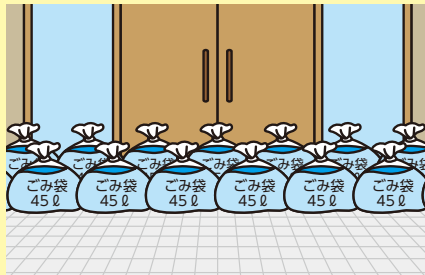
### ゴミ袋を使った簡易水のうの活用方法

ゴミ袋を利用して「簡易水のう」を作ることができます。  
「簡易水のう」は段ボール箱と併用することで強度が増します。

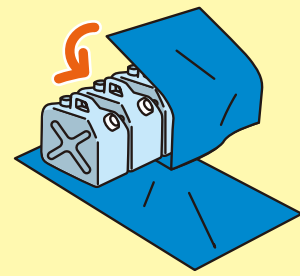
簡易水のうと段ボール箱の併用



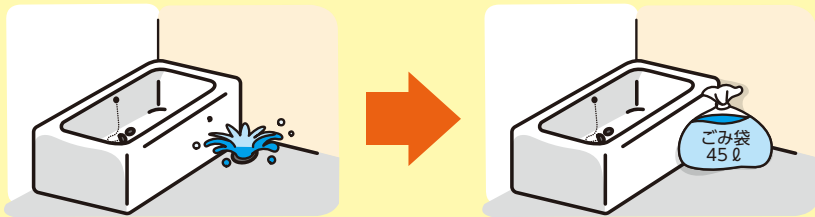
ゴミ袋を利用した簡易水のう



ポリタンクをレジャーシートで巻いた簡易水のう



簡易水のうによる逆流の抑制



## 避難をするときは

### ① 避難情報(避難を促す情報) < 台東区 が地域を指定して発令 >

風水害時に災害が発生するおそれのある場合、区は、**警戒レベル** を付した避難情報を発令します。避難情報は、気象庁等から発表される防災気象情報に基づき、区が発令するものです。

警戒レベル	避難情報等	とるべき行動
レベル3	避難準備・ 高齢者等避難開始	危険な場所から <b>高齢者等は避難!</b>
レベル4	避難勧告 避難指示(緊急)	危険な場所から <b>全員避難!</b>
レベル5	災害発生情報	すでに災害が発生している状況 <b>命を守るための最善の行動を!</b>

荒川氾濫が想定される場合は、警戒レベル3の発令前でも自主的広域避難情報を発表します。

**浸水想定区域の外へ避難してください。**

※令和3年2月現在、避難情報等の制度・名称については変更する方向で検討が進められています。

## ② 防災気象情報(天候や河川の情報) < 気象庁等 が発令 >

気象庁は、防災気象情報に **警戒レベル相当情報** を付して発表します。防災気象情報は、居住者や施設管理者等が、自分の判断で避難行動をとる目安ではありますが、台東区に直接関係ない情報もあります。避難する場合は、区が発令する避難情報を参考に、適切な避難行動をとってください。


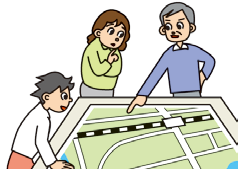

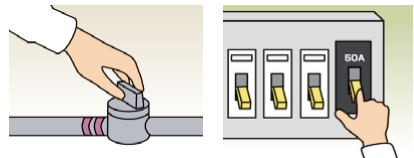
台風や大雨に関する情報は、気象庁等が発表します。

指定河川の水位や流量等の情報は、気象庁と国土交通省または都道府県が共同で発表します。



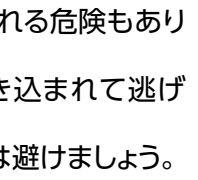

警戒レベル	気象特別警報、警報、注意報等	指定河川洪水予報	とるべき行動
レベル 1	早期注意情報 (警報級の可能性)	——	最新の防災・気象情報等を確認するなど、災害への心構えを高めてください。
レベル 2	大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報	氾濫注意情報	ハザードマップ等で、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認してください。
レベル 3 (相当)	大雨警報(土砂災害) 洪水警報 高潮注意報	氾濫警戒情報	区からの避難準備・高齢者等避難開始の発令に留意するとともに、避難に時間がかかる方は、自ら避難の判断をしてください。
レベル 4 (相当)	土砂災害警戒情報 高潮特別警報 高潮警報	氾濫危険情報	区からの避難勧告、避難指示(緊急)の発令に留意するとともに、避難勧告などが発令されていなくても自ら危険と判断した場合は、避難を開始してください。
レベル 5 (相当)	大雨特別警報 (土砂災害)	氾濫発生情報	災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況となっています。命を守るための最善の行動をとってください。

## ③ 避難時の心得

### 家から出る前に

自主的に行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● テレビやラジオで最新の気象情報や避難情報を確認しましょう。</li> <li>● 雨の降り方や浸水状況に危険を感じたら、避難勧告などの発令を待たずに自主的に行動しましょう。</li> </ul>	
安全な避難経路、避難先を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難先までの安全な避難経路を家族会議などで確認しましょう。危険な場所は河川や橋だけでなく、アンダーパス、地下道なども該当します。</li> <li>● 避難先に、浸水想定区域外の知人や親戚宅、ホテル等の安全に避難できる場所がないか検討しておきましょう。</li> </ul>	
服装・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 単独行動は厳禁。2人以上での行動を心がけましょう。</li> <li>● 動きやすい服で避難をしましょう。</li> <li>● 非常持ち出し品を忘れないようにしましょう。</li> <li>● 長靴は水の中で足を取られて危険なので運動靴を履きましょう。サンダル等も危険です。</li> </ul>	
家を出る前に忘れずに	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガスの元栓を閉めましょう。</li> <li>● 電気のブレーカーを切りましょう。</li> <li>● 避難する旨を知人や親戚に連絡しましょう。</li> </ul>	

## 家を出てから

<p><b>要配慮者への配慮を</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者や子ども、要配慮者等は、早めに避難を開始しましょう。</li> <li>● 居住者に高齢者など避難行動に時間のかかる要配慮者がいる場合は、声をかけて一緒に避難をしましょう。</li> </ul>	
<p><b>歩く際の注意点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人が歩ける水深は50cm程度。流れが速い場合は浅くても危険です。</li> <li>● 長い棒や傘を杖代わりに、側溝やマンホールの蓋が外れていないか確認しましょう。</li> <li>● 切れた電線などには近づかないようにしましょう。</li> </ul>	
<p><b>車で避難しない</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 冠水した道路では車が動かなくなります。水深が増すと、車ごと流される危険もあります。</li> <li>● 車での避難は、緊急車両の交通の妨げとなったり、交通渋滞に巻き込まれて逃げ遅れる危険があります。</li> <li>● 早期の、病人や要配慮者の避難等の特別な場合を除き、車での避難は避けましょう。</li> </ul>	
<p><b>地下空間への避難は危険</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 浸水の水圧でドアが開けられなくなります。</li> <li>● 水の勢いで階段が使えなくなります。</li> <li>● 浸水による停電の可能性があります。</li> </ul>	

避難が遅れたら、丈夫な建物の上層階に避難して救助を待ちましょう。

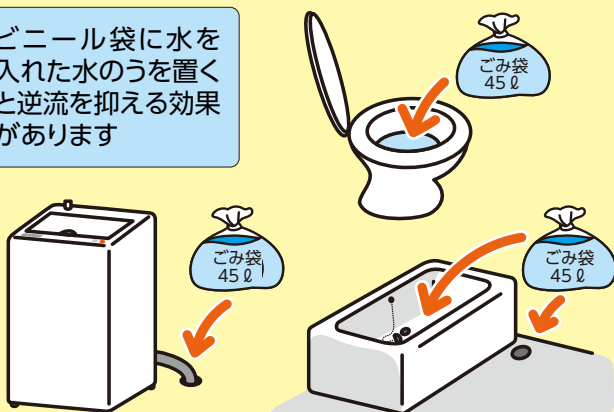
## ④ 家庭内の浸水対策

自宅が水に浸からないとしても、下水の逆流やバルコニーからの水の侵入により、室内が浸水する場合がありますので、家庭内の浸水対策を取りましょう。

### 下水の逆流対策

周辺が浸水すると、排水管から下水が逆流し、トイレ、キッチンなどから下水があふれ出る場合があります。水のうなどを置いて、浸水対策をしましょう。

ビニール袋に水を入れた水のうを置くと逆流を抑える効果があります



### バルコニーの清掃

バルコニーの排水溝から雨水が逆流し、サッシから水が入ってくる可能性があります。事前に排水溝を清掃し、つまりを取り除いておきましょう。

